



孟蘭盆会

8月14日(金)太陽の塔 桜ヶ丘三階本堂において孟蘭盆会が行われました。聖眞山 大信寺 亀谷好慧御住職が御導師を勤められ、お集まりの会員さまと先に旅立たれたご先祖さまやご家族、ご親戚、ご友人に手を合わせました。

孟蘭盆会の由来は「ウランバナ」というサンスクリット語からきており、「逆さ吊り」という意味を持つています。これは、死者が逆さ吊りにさ



第八十六号 会報 浄土真宗 太陽の会

れて苦しむ様子が表された言葉になります。この死者は、お釈迦さまの十大弟子のひとり目蓮尊者のお母さまのことであり、餓鬼道に堕ちたお母さまを神通力で見つけると、常に飢えと渇きに苦しめられ逆さ吊りにさ



孟蘭盆会に会員の皆様と手を合わせました

れている姿を不憫に思い、お釈迦さまに助けを求められます。お釈迦さまは、「母親だけを救おうとするのではなく、90日間の修行を終えた修行僧に施をしなさい。多くの人々を救ったら、餓鬼道で苦しんでいる母親も助かるだろう。」とおっしゃいます。その後、目蓮尊者は多くの人に施し、その功德によって母親も餓鬼道から逃れることができました。このお話が、推古天皇(六〇六年)の時代に伝わり、日本に広まってきた。お盆は先立たれた方々がご自宅にお戻りになり、ご家族におもてなしされ、またそれぞれの居場所に戻っていかれるとされています。お盆に墓参りや里帰りができなかった方は、是非近況をご報告されてはいかがでしょうか。心の安らぎに繋がることでしょう。

降誕会

5月16日(金)に太陽の塔 桜ヶ丘において宗祖降誕会を執り行いました。浄土真宗の宗祖親鸞聖人は平安時代の後期 承安三年、京都の日野でお生まれになりました。父は藤原氏の流れをくむ日野有範(ひの ありのり)、母は吉光女(きつこうによ)と伝えられます。親鸞聖人は養和元年(一一八一年)9歳の春、伯父の日野範綱(のりつな)にともなわれて、慈円和尚(じえんかしょう)のもとで出家、得度をされ範宴(はんねん)と名付けられました。その後、比叡山にのぼられ二十年の間、「生死いづべき道」を求めて厳しい学問と修行に励まれました。親鸞聖人29歳のとき比叡山を下り京都の六角堂で百日間の参籠をされたときに聖徳太子の本地である救世観音から夢告を得られ、東山の



親鸞聖人のご生誕をお祝いしました

吉水で本願念仏の教えを説かれていた法然聖人を尋ねられます。百日間通い続けられ「法然聖人にだまされて地獄に堕ちても後悔はしない」とまで思い定め、本願を信じお念仏の信仰に目覚められました。しかし、お念仏の信仰が広まるのを快く思っ

ていない者たちの陰謀により法然聖人は讃岐国へ(現香川県)親鸞聖人は越後国(現新潟県)に流罪となつてしまっています。親鸞聖人は、この別れに深い悲しみに沈まれていましたが、これもお念仏を多くの方に知っていただきその信仰で皆が救われる好機だと捉えられます。その後、罪はゆるされ法然聖人との再会を待ち望まれますが、法然聖人の訃報によりかなわぬ事となりました。それならば未だ見ぬ土地へ本願念仏の教えを広めようと決意されます。親鸞聖人が説かれる本願念仏の教えは、武士や商人、農民に広がり、瞬く間に関東一円へと広がっていきました。元仁元年(一二二四年)に『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』によって立教開宗されました。



川上太陽霊園于蘭盆会

8月8日(土)川上太陽霊園にて浄土真宗 吉野山 興詮寺 日置正信御住職を御導師にお迎えして盂蘭盆会を執り行われました。川上太陽霊園では、夏季の盂蘭盆会、春秋の彼岸会、追悼法要を勤修しています。法要には多くの会員さまのご参拝いただきありがとうございます。この盂蘭盆会にもたくさんのお参りをいただきました。



「お盆の習慣」

お盆の8月13日から16日にはご先祖さまが家族の元に帰ってこられるという習慣が広く一般的になっています。13日には、お墓参りを済ませ夕方から明かりをもってお迎えに行き、迷わずに家まで帰っていただけるよう自宅の門前では迎え火を焚きます。仏壇とは別に盆棚(精霊棚)を設けてその上にお位牌や香炉を置き、季節の野菜や果物、水菓子などを並べます。そして16日の夕方には帰ってきたご先祖さまを送り出すために送り火を焚いたり、灯籠を川や海に浮かべてその灯りと共にゆつくりと見送ります。このご先祖さまと相對する風習や文化が様々な要因で、少しずつ簡略化され失われつつあります。若い世代の方にも大切なご先祖さまを尊ぶ習慣があったことを大切にしたいと願います。

令和八年 行事計画

○本山(福山)

「秋彼岸会」 九月二十二日(火)

開式 十時

「もちつき大会」

十二月十九日(土)

開始 十時

○川上太陽霊園(鹿児島)

「秋彼岸会」 九月十三日(日)

開式 十時

「始良太陽霊園 追悼法要」

十一月四日(水)

「川上太陽霊園 追悼法要」

十二月十二日(土)

*お経本や数珠は当会でも準備させていただきます。はじめてお参りの方もどうぞ気軽にお参りいただけたら幸いです。

僧侶のひびき

第20回アジア競技大会が、名古屋の地でまもなく開催されます。アジア競技大会は、第3回の東京(一九五八年)第12回に広島(一九九四年)と日本で開催されるのは3回目となります。前回の広島大会では、アジア諸国との交流が活発に行われました。また、広島空港の開港やアストラムラインの建設といった交通インフラの整備も、大会を機に行われました。一方でオリンピックや万博等の開催には、大会に関わる経費の高騰等も問題視されています。前回の広島大会同様にスポーツを通じて人と人との繋がりが広がり、未来の希望となるような選手のご活躍、実りある大会になることを期待します。

八月〜十月のことば

太陽の会では、館内入口に「月のことば」を掲載させて頂いております。身近なお言葉として興味を持っていただき皆様のお心で味わって頂けたら幸いです。

【八月のことば】

関係ないように見えて実はみんな深い関係があるんです

「永 六輔」

見えないところで「いのち」を支えてくれるもの、気づかないところで「私」とつながってくれるもの。その関係性を知れば知るほどに、多くの恩恵に気づくことができるのです。

【九月のことば】

悲しみが「いのち」への深いめざめとなっている



「瓜生津隆真」

この世のいのちは無常であり、落とせば壊れる茶碗のように、いますぐにでも壊れるのです。南無阿弥陀仏は、死んだら終わりと考えていた私の心を救ってくださるのです。

【十月のことば】

世間的なことでは心の底から満足できない
そういうものが人間にある

「米沢英雄」

自分の期待に苦しめられている深い苦悩があります。しかし、小さな子どもだった頃、仏さまや神さまに手を合わせる時に、拝んだら儲かるとか、どんな良いことがあるなんて期待はしなかったでしょう。計算づくの心から離れることができないわが身を阿弥陀さまにゆだねてみるのです。

